

(様式1)

教育研究業績書

2022年5月1日

氏名 伊藤 まゆみ

研究分野		学位	
臨床看護学 基礎看護学 臨床心理学		修士(カウンセリング) (筑波大学) 博士(カウンセリング科学) (筑波大学)	
研究内容のキーワード			
(1)終末期ケア、(2)がん看護学、(3)看護教育学、(4)対人コミュニケーション、(5)カウンセリング			
教育上の能力に関する事項			
事項	年月日	概要	
1. 教育方法の実践 終末期ケア実習における看護学生のストレスマネジメント：コミュニケーション・スキル獲得訓練、感情焦点化療法	2010年9月～2022年3月	看護系大学3年次の成人看護実習において終末期がん患者を担当した学生を対象に、ストレスマネジメントを目的に、カウンセリング技法であるコミュニケーション・スキル獲得訓練と感情焦点化療法を用いて支援を行った。対象学生は終末期がん患者と対話ができるようになるとともに、場面の再構成によって自身の苦悩についてもマネジメントできるようになった。	
2. 作成した教科書、教材 (1) 慢性期看護・ターミナルケア・緩和ケア (2) 看護に活かすカウンセリング技法Ⅰ (3) 看護に活かすカウンセリング技法Ⅱ	1998年～2022年3月 2014年～2022年3月 2017年～2019年3月	成人看護学方法論を学ぶサブテキスト作成 コミュニケーション論やカウンセリングを学ぶテキスト作成	
3. 教育上の能力に関する大学等の評価	1999年～2022年3月	複数の大学における学生授業アンケートでは90%以上の学生が授業内容に興味・関心を持ち、学生の考えが広がったと評価している。また、教員の授業への姿勢は意欲的であると評価している。	
4. 実務の経験を有する者についての特記事項 (1) 大学病院にける看護師、臨床指導者研修や看護中間管理者研修受講を経て、臨床実習指導者、卒業後継続教育担当、看護中間管理職の実務経験 (2) 看護師を対象とした看護研究指導、カウンセリング研修、臨床指導者研修、看護診断等の講師としての実務経験	1976年～1991年3月 1999年～2022年3月	慈恵医大において、内科系、外科系、手術室、小児外科・内科、救急外来等で実務した。 大学の教員として臨床の看護師への教育支援を行った。	
5. その他 急性期型病院における退院支援システムの構築	1999年～2003年3月	3つの総合病院における退院支援システムの構築並びに成果を報告した。	
職務上の実績に関する事項			
事項	年月日	概要	
1. 資格、免許等 1) 看護師 2) カウンセリング心理士(旧認定カウンセラー)：0377、認定スーパーバイザー：SV-0148	1976年6月 2003年～現在迄	日本カウンセリング学会認定、活動目的は「カウンセリング」の知識と技能をもって、クライアント及びカウンセラーに専門的支援を行う。	
2. 所属学会 日本看護研究学会、日本看護学教育学会、日本看護科学学会、日本がん看護学会、日本緩和医療学会、日本カウンセリング学会、日本看護管理学会	1990年代～現在迄	看護系、医療系、心理系学会に所属し、研究活動を行っている。	
3. 実務の経験を有する者についての特記事項 看護師17年間、専門学校専任講師6年、大学教員(講師・助教授・准教授・教授)23年間(内大学院教育7年含む)	1976年～現在迄	教員審査を大学で2回、大学院で2回受審、看護師は内科系、外科系の看護師、実習指導者、卒業後教育、中間管理職などを経験、教員は成人看護学、終末期ケア、がん看護を中心に経験する。	
4. その他 大学看護学部設置準備委員、指定規則改正に伴う教育課程変更に関わるプロジェクトリーダー2回など	2007年～2022年3月	主に教育課程の構築に関わる役割を遂行	

(様式2)

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 看護に活かすカウンセリングⅠ コミュニケーション・スキル 対象の生き方を尊重した健康支 援のためのアプローチ	共著 編集	2014年3月	ナカニシヤ出版	本書はカウンセリング技法を活用したコミュニケー ション・スキルの理論編と看護の具体的状況にあわせ た使い方・学び方の実践編からなる。 B5版 全157頁 共著者:伊藤まゆみ他9名
看護に活かすカウンセリングⅡ 「感情のマネジメント」-効 果的な患者支援と看護師のメン タルヘルスのための自己調節- 他12冊	共著 編集	2016年2月	ナカニシヤ出版	本書は、看護師のキャリア発達の観点から、理論編と カウンセリング技法を活用した患者のネガティブな感 情への対処支援と看護師のメンタルヘルスのための自 己調節の実践編からなる。 B5版 全1143頁 共著者:伊藤まゆみ他7名
(学術論文) 臨死患者のケア実習における看 護学生の心的衝撃への対処プロ セス(査読付)	共著	2011年7月	ヒューマンケア研 究, 12 (1)	目的: 臨死患者のケアに直面した学生の心的衝撃の内 容とそれへの解決のための対処プロセスを質的に分析 することで、心的衝撃への認知的・情緒的な調整の様 相、並びに学生の心的衝撃への自己調整に向けた対処 支援モデルを検討することである。方法: 実習で臨死 患者を担当した看護学生を対象に半構造化面接でデー タ収集し、修正版GTAで分析した。 P. 22-34. 共著者: 伊藤まゆみ、小玉正博、大場良子
臨死患者ケアにおける看護学生 の心理教育的支援の意義と課題 (査読付)	共著	2011年9月	筑波大学心理学研 究, 42	目的: 臨死患者ケアにおける看護学生の心的衝撃体験 の様相、要因、対処支援に関する国内外の知見を概観 し、看護学生が臨死患者ケア場面で、心的衝撃を認知的 ・情緒的に自己調節するための心理教育的支援の意 義と課題について言及した。 P. 77-86. 共著者: 伊藤まゆみ・小玉正博
終末期ケア看護師用コミュニ ケーション・スキル尺度および 看護師用対患者関係知覚尺度 (査読付)	共著	2012年3月	筑波大学心理学研 究, 43	目的: 終末期ケア看護師用コミュニケーション・スキ ル尺度と看護師用対患者関係知覚尺度を開発すること である。方法: がん患者終末期ケアに携わる看護師に 質問紙調査を実施し、信頼性と妥当性を検討した。 P. 71-82. 共著者: 伊藤まゆみ・小玉正博・藤生英行
終末期ケアに携わる看護師の ストレスに起因したポジティブ な変化がバーンアウトに及ぼす影 響(査読付)	共著	2016年3月	共立女子大学看護 学雑誌, 3	目的: 終末期ケアに携わる看護師のストレスに起因し たポジティブな変化がバーンアウトに及ぼす影響を明 らかにすることである。方法: 終末期ケアに携わる看 護師に質問紙調査を実施し、重回帰分析した。 P. 1-10. 共著者: 伊藤まゆみ 他3名
看護師版感情対処傾向尺度の開 発一尺度の信頼性・妥当性の検 討(査読付)	共著	2017年12月	ヒューマン・ケア 研究, 18(1)	目的: 看護師版感情対処傾向尺度を作成し、その信頼 性と妥当性を検証することである。方法: 病院に勤務 する看護師279名を対象に質問紙調査を実施した。 P. 25-35. 本人担当部分: 計画、調査、論文執筆指導 共著者: 金子多喜子、森田展彰、伊藤まゆみ、他1名
終末期ケア実習における看護学 生のコミュニケーション・スキ ルの獲得が対患者関係知覚とコ ミュニケーション懸念に及ぼす 影響(査読付)	共著	2019年3月	共立女子大学看護 学雑誌, 6	目的: 終末期ケア実習中の看護学生に対患者関係を築 き、患者の問題を意識化するためのコミュニケーション ・スキル獲得訓練を実施することで、対患者関係知 覚とコミュニケーション懸念に及ぼす効果を検証す ることである。方法: 看護3年生を対象に、2 (実験群と 統制群) × 2 (CS獲得訓練前後) の混合計画で介入し た。P. 1-11. 共著者: 伊藤まゆみ 他5名
感情労働に伴う感情対処育成の ための Web 版教育プログラ ムの検討(査読付)	共著	2019年3月	日本看護科学学会 誌, 39	目的: 看護師の感情対処育成のため認知再構成法によ る Web 版教育プログラムを実施し、感情対処傾向の変 容効果を検証することである。方法: 看護経験年数 10 年未満の看護師を対象に介入し、その成果を介入前・ 後、および介入後 1 ヶ月の 3 期に測定した。P. 45- 53. 本人担当部分: 計画、調査、論文執筆指導 金子多喜子、森田展彰、伊藤まゆみ、関谷大輝
他47編				
(学会発表、講演など) 89編				
(その他) 11編				